

高レベル放射性廃棄物の地層処分の文献調査の 申し入れがありました

令和8年8月31日、経済産業大臣から常陸大宮市長に、常陸大宮市を対象とした高レベル放射性廃棄物の地層処分にに関する文献調査の申し入れがありました。

地層処分の概要は、NUMO（原子力発電環境整備機構）のホームページをご覧ください。また、最新情報は市ホームページで随時公開します。



▲ NUMO
ホームページ



市民の皆さんへ

ここ 30 年の本市の推移を顧みますと、人口は 7 割になり、事業所数は 6 割、商業事業所数は 4 割 5 分まで減少し、耕作放棄地や空き家の増加をはじめ、現在は地域環境の保全すら危うい状況にあります。過去 30 年のトレンドを今後の 30 年に照らし合わせるなら、本市に根を張って生きていこうとする現在の子供たちはどうなるのか？市民からこんな問いかけを受けて、私はその選択肢の一つとして「高レベル放射性廃棄物の地層処分」という国家の一大プロジェクトが持つリスクと地域経済に与える影響について独自に学んできました。

今回の文献調査は、最終処分場建設に至る道のりの中では、スタートラインの手前の調査で、この調査をクリアした段階で、初めて

スタートラインにたてるという意味合いの調査だと認識しています。具体的には、既存文献（既存書籍）と蓄積データから適地であるか否かを机上で判断するものです。次の概要調査並びに精密調査には 18 年を要し、都度、知事と首長の同意が必須であり、市民の皆様が判断するための知見習得には十分な時間をもって対応することとなります。

今後、各地域で勉強会を開催し、市民の皆様と科学的見地になった情報共有を行い、最終処分場について自ら考える機会を提供していきますので、ご参加のほどよろしくお願いいたします。

常陸大宮市長

鈴木 達幸



常陸大宮市の情報がいつでもどこでもすぐにわかる！

ひたまるアプリ

市最新情報を
スマホに通知

ごみ収集日の
プッシュ通知

防災・災害
関連情報

二次元コードを読み取って
いますぐダウンロード！





